

2023年11月15日  
日本船主協会 海事人材部

## 荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

日本船主協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しております。

この度、その一環として2023年11月11日(土)に開催された、荒川区立第三中学校(東京都)の校内ハローワークに協力しました。

荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、約30業種の社会人が講師となり、在生徒にその職業について紹介するという取り組みであり、今年で18回目を迎えました。生徒が様々な職業の魅力や苦勞、やりがいを直接聞くことで、それらの職業に対する知識を深め、卒業後の進路や生き方について考えることを狙いとしています。当協会には2011年度より招請があり、今回で13回目の講師派遣となりました。

今年度は11月11日(土)に開催され、「船員(船乗り)」として株式会社商船三井大谷真史 船長、土井 康輔 二等機関士 の2名がパワーポイントを用いて講話を行いました。船員の他、アナウンサー、能楽師、薬剤師、海上保安官、弁護士など多種多様な29職種の講師が招かれ、1~3年生の全校生徒がそれぞれの講座に参加しました。

3回実施された講座には、計44名の生徒(うち11名女子)が参加し、海運が社会に果たしている役割や重要性、船の大きさ、船上での仕事内容、海技者への進路などについて、説明を熱心に聞いていました。また、そのスケールの大きさに非常に驚いている様子でした。

さらに、「なぜ船員を目指したのか」、「船乗りになるための苦勞は何か」、「船で一番楽しいことは何か」、「船乗りのやりがいは何か」など、各講座とも時間いっぱいまで様々な質問があり、生徒に海運業界や海技者の仕事の魅力が伝わった様子でした。

なお、今回は女子中学生の参加が目立ち、女子からも船員についての興味が向けられていることを感じさせられました。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後もこうした若年層へのキャリア教育の場に積極的に参加し、海技者の魅力を伝え、職業の認知度向上に努めてまいります。



講師の大谷船長（左）、土井二等機関士（右）



写真を見せながら船の種類について説明する



サプライチェーンの一翼を担う海運について説明する



講演に聞き入る中学生たち